

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690700311		
法人名	メディカルケア御所ノ内株式会社		
事業所名	グループホーム ごじょう西小路 (4階 愛宕山)		
所在地	京都府京都市右京区西院追分町5番地		
自己評価作成日	令和 5年 3月 20日	評価結果市町村受理日	令和5年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jkyosvoCd=2690700311-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jkyosvoCd=2690700311-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅津町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年4月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日中は看護師がおり、夜間はオンコール体制をとっているため急な体調変化にも的確、迅速に対応している。京都武田病院・七条武田クリニックと医療連携を図っており、月2回の訪問診療の他、必要時は看護師が付き添い受診支援している。認知症の進行された入居者様にも出来るだけ笑顔で過ごし、お一人おひとりに合わせたきめ細かい支援を行っている。コロナ感染対策で思うように外出できないが、お菓子づくりや創作レクリエーション、季節のイベント等、新しいものに取り組み楽しい時間を過ごして頂けるよう工夫している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

設立から6年を迎えた当事業所は、一時期新型コロナウイルスの陽性者の発生はありましたが、行政の指導や協力医療機関との連携により終息しました。高齢者施設という事で、面会や外出にも慎重で、2メートル離れた玄関での面会やガラス越し面会などをしていましたが、4月からは緩和し、散歩も予定しています。また利用者が閉塞感を感じないように、ユニット内の行事に工夫を凝らし、その様子はブログや広報紙「御所の内便り」に掲載し、多くの方の目に触れるようにしています。皆で作った桜の装飾を真ん中に、桜餅で花見気分を味わい、またある時は、挽きたて本格コーヒーで愛宕山喫茶を開き、他にも、秋の大運動会、模擬葡萄の葡萄狩り、手作りカードと栗のどら焼きで祝う敬老会など、各ユニットの特徴を活かした、温かくユニークな取り組みに、利用者の顔もほころびます。また、定期の訪問診療の他に、協力病院やクリニックへの通院には事業所が付き添い、事業所の看護師による夜間オンコール体制もあり、医療面で24時間のサポートが受けられることは、利用者や家族にとって大きな安心です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を念頭にケアを実践するよう努めている。	「家庭的で暖かなケアを提供します。」「一人一人に寄り添うケアを心掛けます。」など3つの職員理念を定め、以前は朝礼時に週1度は唱和していたが、コロナ禍以降は中止している。玄関やユニットへの掲示や、2か月ごとの広報紙への掲載により、職員や家族への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、近隣の保育園から定期的に園児に来所頂いたり、事業所の夏祭りに地域の子どもたちを招くなどして交流していたが、現在は感染対策のため実施していない。	町内会に入り、回覧版を回し、そこから地域の情報も得ている。コロナ禍により町内活動は不活発なので、活動に参加できていない。近所の方が事業所周りを掃いてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月更新するブログで、入居様がレクリエーションやイベント等を笑顔で楽しんでおられる様子を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策の為、書面報告としている為、十分意見を伺えていない。	コロナ禍以降の会議は書面開催で、関係者からの情報収集はほとんどできず、事業所の活動報告のみであった。今後は関係者に出席してもらい対面でおこなう予定である。議事録は関係機関や民生委員などに、できるだけ手渡しで配布し、家族には郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ陽性者発生時には、アドバイスを頂き感染拡大防止を図った。事故発生時にも報告している。	新型コロナクラスター発生時には、市保健福祉局や介護ケア推進課から指示やアドバイスを受けた。ガウン、マスクなどの衛生用品や、PCR検査キットの提供を受け、抗原検査用キットの申請もした。事故報告や介護保険請求に関する事務的な問い合わせなどで普段から行政と関わり、運営推進会議議事録は直接持参している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等で理解を深めている。入居者様の行為、行動を妨げないよう言葉の掛け方等も配慮している。	身体的拘束等の適正化のための指針を整備して、3か月に1回委員会を開催し、所定の職員研修を年2回している。各職員は詳しい研修報告書を作成して提出している。センサー使用の方は、家族とも話し、施設サービス計画に記載し、3か月ごとに評価をしている。玄関は昼間は開けているが、職員体制により施錠していることもある。外出は控えていたため、外出したい方には話を聞いたり気分転換を図ったりして丁寧に関わっている。	

京都府 グループホーム ごじょう西小路 (4階 愛宕山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学び、普段から身体拘束をしないという意識を持って入居者様とコミュニケーションを図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学ぶ機会を持っている。必要な方には活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解を得よう図っている。利用開始前に不安、疑問等を伺い、説明し安心して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会の際に、職員から伺うようにしサービス向上に努めている。	アンケートで家族から要望を聞き取り、必要なものを届けてもらったり、電話や通院の機会にも意見を聞いている。面会や外出の要望や、本人の様子が知りたいといった意見が多い。面会は、新型コロナの状況に応じて方法を変え、今後は、会議室での面会を予定している。利用者からは、普段から話を聞き、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見を言える雰囲気や関係づくりに努め、提案等は実現できるよう図っている。ユニット会議やリーダー会議で意見を聞いている。	普段でも、会議でも職員は意見が言える。職員体制に関する意見が多い。行事に関しても活発な意見が出て、担当者が中心となり工夫を凝らしている。その成果はブログで発信している。人事考課面談で上司と自己評価をするさいにも、要望を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働きやすい職場になるよう条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や、本人の希望、力量に合った外部研修受講の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で交流する機会はあるが、コロナ禍以降は同業者と交流する機会を持っていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の生活歴や状況の把握に努め、ご本人、ご家族が安心できるサービスを提案し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に、じっくり話を聞く機会を持ち、言いにくい現実に困っておられる事も伝えて頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の段階で、ご家族が必要とされているサービスが他にある場合は、そちらを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活させて頂くという姿勢を大切に、ご利用者に頼ったり、何かをする時には相談するようにしている。喜怒哀楽を表出できるお互いが家族のような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族にご本人の様子を伝えるなど連絡して状況を把握して頂き、今後のケアの方向性を相談するなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人からのハガキを代読し思い出せるよう支援したり、日常の会話の中でご家族や馴染みの方の話題を出し関係が途切れないよう努めている。	家族に毎月写真と手紙を送り、2か月ごとに広報紙も送っている。友人の来訪はないが、家族との面会は状況によりおこなっている。電話の取次ぎもしている。入居者の書いた年賀状を職員が投函している。従来からの洗濯物畳みや新聞畳み(汚物廃棄用)をされている方もある。編み物、DVD視聴などの趣味の継続も支援している。訪問理美容で染髪やパーマをされる方もいる。毎日2回、全体体操を実施し参加できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者同士や面倒見の良い方等、座席に配慮している。困っている方がいると職員に伝えて下さる方などご利用者同士の支え合いがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を知らせて頂く場合等、一緒にご本人の思い出を語りあっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の気持ちを尊重し、希望の実現を目標として、ご本人のペースで生活して頂けるよう支援している。	アセスメントには本人の生活歴などを記載し、認知症支援に活かしている。入所以来、追記をして、その年月日も記載している。本人の意向が言葉で伝わらない方は、ケアカンファレンスにおいて職員間で話し合い、情報を共有したり、家族に聞くなどして本人理解に努めている。おやつ希望や、チラシを見ての「これ美味しそう・・・」などの言葉にはなるべく応え、実現するようにしている。	入所当時のアセスメントシートに、赤のボールペンで頻回追記を重ねています。本人の状態の変化や要望の推移が分かりにくいので、アセスメントシートは、定期的に更新して、その時々で変わる本人の課題を明確にされるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族との会話から、これまでの暮らしを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察を十分行い、職員間で情報を共有し暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望を聞き、ご本人主体の願いを基に介護計画を作成している。	施設サービス計画は、ケアカンファレンスで職員間で協議し、家族等の意向も聞き取り、作成している。計画には家族等の承認を得ている。計画は1年ごとに作成し、短期目標は6か月で設定し、3か月ごとに進捗状況を見直している。急な変化や認定期間満了前などには適宜計画を見直し、更新している。職員は日々の介護記録に、自らが計画の何番目を遂行しているかの記録を付けている。	本人支援には、事業所に在籍している介護職・看護師以外に、健康管理を担う主治医、通院介助を担う家族、配薬の薬剤師なども関与しています。サービスの相互関係や全体像が見えるように、他職種や家族の役割を施設サービス計画に明記されるよう期待します。

京都府 グループホーム ごじょう西小路(4階 愛宕山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実施記録と共に、日々の様子や些細な変化は、ご本人の言葉や思いをありのまま記録するようにして、職員間で情報を共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で実施できない事もあるが、可能な限りその時々生まれるニーズに対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は、近隣へ食事や買い物、散歩に出掛け楽しんで頂いていた。保育園児の来訪は、非常に喜ばれる為、再開できるよう図っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連の医療機関からの月2回の訪問診療の他、体調不良時等、関連病院その他で受診できるよう支援している。	協力医療機関のクリニックの医師が月2回診療に来ている。また、系列の病院に通院する時は事業所が通院の同行支援をしている。他の医療機関受診には家族が付き添い、事業所は診察に必要な情報を伝え、受診結果を報告してもらっている。訪問歯科医が必要時に来られ、歯科衛生士による口腔衛生指導もある。事業所看護師による夜間オンコール体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化も報告し、指示を仰いでいる。オンコールで夜間も看護師に相談できる体制が整っており、適切な対応、受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関連病院の相談員、看護師とは関係を築けている。その他の病院の関係者とも情報交換に努め関係づくりを行っている。		

京都府 グループホーム ごじょう西小路(4階 愛宕山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について、事業者ができる事を説明しご家族の意向を確認し、その後もその時々で意向を確認している。	看取り介護と重度化に係る指針や、事前意向確認書を整備し、入居時に家族に説明して同意をもらっている。重度化した場合、可能な限りホームで過ごして頂けるよう支援しているが、本人の状況、家族の希望などにより入院されるので、ホームでの実際の看取り例はなく、看取り研修はおこなっていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応の研修を行っている。救急救命講習やAEDの使い方の講習を受ける機会をつくっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施し全職員が利用者様を避難誘導できるよう努めている。	今年度は、地震による火災と従来の火災の消防訓練を2回、昼間想定でおこなった。併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、通報・消火・避難訓練をしている。利用者もエレベーター前に誘導・避難している。水害想定計画策定後初めての訓練を10月に実施し、エレベーターで4階への上階避難をおこなっている。水害の場合は、行政発出の情報を事前に収集しながら、早目に4階に避難をする予定である。避難訓練後の報告は運営推進会議でおこなっているが、コロナ禍で、近隣住民への連絡や協力、運営推進会議での提案はできていない。備蓄は特に準備をしていないが、米や衛生用品は多めに購入している。	建物が4階建てという事もあり、夜間の災害避難には相当の困難が予測されます。年2回のうち1回は夜間想定での避難訓練が望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、お一人おひとりを尊重した言葉掛けや支援を心掛けている。排泄、入浴介助時は特に羞恥心に配慮し支援している。	接遇やプライバシーの研修は今年度はできていないが、管理者は、身体拘束やリスクマネジメント研修や会議などで、「利用者には、人生の大先輩として尊厳を持って関わるように」と話している。トイレや入浴時の羞恥心を考慮して丁寧な支援をすることや、同性介助への配慮、居室入室時のノックや声かけなど、利用者に合わせた対応を考えて支援している。赤ちゃん言葉のような言い方を職員がしている場合は、主任、管理者などがその場で注意し指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも選択肢を設けたりして、自己決定できるよう希望が叶えられるよう配慮している。		

京都府 グループホーム ごじょう西小路(4階 愛宕山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースを尊重した支援を心掛けている。新聞広告を一緒に見て買い物の計画を立てるなど希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服を選んで頂いたり、鏡の前で身だしなみを整えて頂けるよう支援している。マニキュアを楽しんで頂く機会もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの状態に応じ、広告を見ながら食べたい物を伺ったりして食事に興味を持って頂けるようにしている。季節感を感じられるおやつを職員と一緒に作って頂いている。	最近委託業者を変更し、一口食→やわらか食、キザミ食→ムースなど多様な形態で提供し、食べやすく、食が進むようになっている。ご飯や粥、みそ汁は、ユニットで作っている。主食は利用者の好む炊き込みご飯や、行事にちなんだそうめんやちらし寿司などに変更することもある。ヨーグルトや果物を添えることもある。食事前に利用者が献立を読みあげている。正月にはおせち料理、雛祭りにはちらし寿司で祝い、敬老の日には、西院第二社会福祉協議会から赤飯が届く。誕生日のケーキや桜餅、栗入りどら焼き、ホットケーキ、挽きたてコーヒーなど、行事に合わせて手作りして楽しんでいる。できる方はトレyfukiなどをしている。	食の楽しみは、本人の生命力をも左右する大切な要素です。また、他事業所との差異がでるのも食事で、家族からも関心が寄せられています。コロナ禍が収束したら、家族との食事会を開き、感想を聞かれるのもよいでしょう。利用者や、職員意見なども吸い上げて、食器の選定も含め、さらに食事を楽しむことができるように検討を重ねられるよう期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、ご本人が摂取しやすい形態や種類に変更するなど工夫して必要な量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを実施している。夕食後は義歯を預かり洗浄剤につけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンの把握に努め、その方に合ったパッド類の選択、トイレの声掛け、支援を行っている。出来るだけトイレで気持ちよく排泄して頂けるよう支援している。	平均介護度4という状況の中、利用者の様子を把握し、記録をもとに、排泄の声かけや支援をしている。布パンツとパット使用で自分で交換できる方、夜のみ特大パット使用の方、昼間2人介助でもトイレでの排泄が難しく、居室でパット交換をし、夜はテープ式おむつの方など、それぞれに合わせた支援をしている。排泄状況は介護記録や申し送りノートに記録し、改善が必要な場合は看護師とも相談し、ケアカンファレンスで話し合い、変更をしたり、様子を見るなどしている。紙パンツからおむつに変更したところ、排便の回数が減り、若干清潔が保てるようになった例がある。	



京都府 グループホーム ごじょう西小路 (4階 愛宕山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回は、乳製品(牛乳、ヨーグルト等)を提供し、おやつもメニューを配慮し、適宜、腹部マッサージを実施するなど、看護師と相談しながら個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望を確認し、入浴剤の使用やゆず湯、菖蒲湯など、リラックスして楽しく入浴して頂けるよう支援している。	週2回、主に午前中に入浴している。ユニットの広めの個浴を使用する方や、1階の機械浴を利用する方もある。湯は毎回入れ替え、季節のしょうぶ湯やゆず湯も楽しんでいる。シャンプーなどは好きなものが使える。肌の保護のため、入浴後は保湿剤を塗っている方もいる。洗髪後のドライヤーは脱衣室でおこない、身なりを整えてからフロアに出ている。居室のカレンダーに入浴日の印をつけて楽しみにしておられる方もある。入浴を嫌がる方には日時を替えて心地よい入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状態に合わせて休息時間や、就寝、起床時間を配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬情報を保管し、薬の効能、副作用等を全職員が把握するよう努めている。確実に服薬できるよう支援、症状の変化等があれば看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴を活かして、できる事を依頼し、労いの言葉をかけて役割を感じ張り合いのある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の為、受診以外の外出は出来ていないが、以前は外食、買い物やレクリエーション等を楽しんで頂いていた。	敷地内やベランダに出て外の様子を見たり、外気浴をしているが、法人の考えで外出や散歩などはできていなかった。家族付添いの病院受診はできている。4月からは、職員と公園への散歩が可能となったので、順次実施していく予定である。ドライブも許可は出たが運転手や職員の確保が難しく今はまだできていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、ご本人の希望があれば所持できるように支援している。各ユニットの金庫で預かり金を管理し、ご本人の希望に応じ買い物代行している。		

京都府 グループホーム ごじょう西小路(4階 愛宕山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族から掛かってきた時やご本人の希望時に支援している。年賀状をご家族に出して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家のように安心して過ごして頂けるように努めている。リビングには季節の飾りをして季節感を大切にしている。食材を切る音や料理の匂いを感じて頂ける家庭的な雰囲気づくり等、工夫している。	ユニットには対面式キッチンがあり、その向いのリビングダイニングには、長方形のテーブル2卓と正方形のテーブル1卓が用途に合わせて配置されている。コロナ禍で、利用者は間隔を開けて座っている。足置き台を使用している方もいる。壁側に大きなテレビ、横にソファが置いてある。ベランダからは光が差し込み、明るい。体操やテレビ視聴、歌などを楽しんだり、新聞広告を見ておしゃべりに花を咲かせたり、新聞畳みに勤しむ方もある。壁には桜の花の利用者作品が貼られ、職員が作った桜も天井から枝垂れ、春の風情を演出している。個々の作品や書写は居室に飾っている。常時排気窓を開けて換気し、空気清浄機やエアコンなどで空調管理をしている。掃除は職員がおこない、トイレには清掃チェック表を貼り、日に3回掃除をして清潔にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが入居者同士の語らいの場になるよう座席に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒やけがの無いよう配慮しながら、ご家族と話し合い馴染みの物や家具を持って来て頂き、ご本人が安心して居心地よく過ごして頂けるよう努めている。	ドア横に部屋番号と名前が書かれた職員手作りのネームプレートがあり、角に小花が飾られている。介護用ベッド、カーテン、空調機などは備え付けで、タンスやハンガーラック、テレビなどを家から持ってきて使用し、家族や孫の写真、ぬいぐるみ、寄せ書きの色紙などを飾っている。昼食後に居室で休憩をしたり、事業所の雑誌を借りて読んだり、好きなテレビ番組を見て一人で過ごす方もいる。掃除は職員がしている。衣類や寝具は家族が持参し、季節ごとに入れ替えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等の配置を工夫し、安全に配慮した環境整備を行い自立した生活が送れるよう支援している。		